

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201153
法人名	(株)シルバーケアサービス
事業所名	グループホームひまわりの家
所在地	今治市古谷甲19番1
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「食事」「運動」「水分」「排泄」のテーマを重視して日々の生活ケアに取り入れている。                  「食事」・・・自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者と共に作業している。                  「運動」・・・体操・散歩・余暇活動など、日中適度な運動の習慣化を図っている。                  「水分」・・・1日1500cc摂取を目標とし、徹底してチェックしている。                  「排泄」・・・排便対策として運動・水分摂取に取り組んでいる。なるべく布パンツで生活できるよう、可能性を追求しながらケアにあたっている。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今治市の旧朝倉村の田園地帯の中に建つ事業所前の道路を隔てて、障害者支援施設今治育成園があり、利用者同士の相互の交流をしている。開設して10年目を迎える事業所は経験豊かな職員が多く、「自由で笑顔のある、こころ通う生活を共に」という理念の意味を職員は絶えず問いかけながら、やりがいを持ってケアに取り組んでいる。できる限り利用者の力が発揮できるよう、生活環境を整えたり、職員の見守る姿勢を大切にして支援している。開設当初から入居している利用者も多く、利用者同士や職員と馴染みの関係もできており、利用者からのいたわりの言葉で、職員が癒されているという感想も聞かれた。常に利用者を職員自身や職員の家族に置き換えて考え、利用者本位のケアの実践に努めている。</p>
---

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 10 月 21 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ひまわりの家

(ユニット名) えがお

記入者(管理者)  
氏名 和田 京子

評価完了日 平成 26 年 10 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 常日頃より職員全員で一番大事にしたい事を話し合いながら、理念を共有し実践できるよう振り返りの実施を行っている。</p> <p>(外部評価) 「自分たちが高齢になった時にどのように過ごしたいか」を開設時に職員間で話し合い、一人ひとりの案を持ち寄り、「自由で笑顔のある、こころ通う生活を共に」という理念を作成し継続している。理念は玄関や和室中央に掲示し、利用者や家族だけでなく、職員にも常に意識できるようにしている。職員はケアに行き詰った時には理念を振り返り、実践できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域ボランティアさんの訪問や、保育園の園児たちの訪問などで交流を図っている。また、地域の祭りに行ったり、御神輿やいのこさんの訪問などはしてもらっている。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。秋祭りには地区の子ども神輿の訪問がある。保育園や小学校合同運動会に招待を受け、利用者と一緒に参加している。また、似顔絵や紙芝居、フラダンスなど多くのボランティアが訪問があり、利用者を楽しませてくれている。幼稚園児が踊りを披露してくれたり、会話を楽しんだりすることは利用者にとってこの上ない喜びになっている。また、中学生の職場体験を受け入れ、事業所の運動会にも一緒に参加してもらい交流をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回の推進会や、ボランティアさんの訪問時に、意見交換・情報交換を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) アドバイスいただいたことは職員間のミーティングで話し合いサービス向上に繋がるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は民生委員、ボランティア、近隣の障害者支援施設の職員、市担当者等の参加を得て2か月に1回開催している。会議では利用者の様子や活動報告を行うほか、毎回ヒヤリ・ハットや事故報告を行い、参加者と改善内容等を話し合い、改善できる仕組みに繋がっている。また、障害者福祉施設の職員からの提案で、利用者の顔写真を作成し、地域で利用者を見かけた場合には連絡をもらえるようになった。会議内容はミーティングで報告し、職員間で共有している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議等で相談事にその都度快く対応して下さっており、アドバイスもしていただき、応援して下さい。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の実情を把握すると共に、情報提供や助言をしている。また、市担当者が民生委員の会で事業所の見学や運営推進会議への出席を働きかけてくれるなど、協力的である。今年結成された市のグループホーム連絡協議会が2か月に1回開催されており、研修会にも参加し他の事業所との交流を図っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 日中はもちろん、夜間も玄関のみの施錠で身体拘束は行っていない。</p> <p>(外部評価) 玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。一人で外出しようとする利用者が多く、敷地の出入りにセンサーを設置し、職員が気づき声かけをするようにしている。管理者は「頭の後ろにも目をつけて」と職員を指導し見守りを徹底している。ベッドから転落が予測される利用者にはリビングの和室で寝てもらい、常に見守りができるよう配慮している。また、言葉づかいで気になることがある場合は、職員間でその都度注意し合っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員、虐待についての知識は理解できており、あつてはならないこととして認識している。外部の勉強会にも参加している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) いざという時に困らないよう、権利擁護の研修にも参加しており、職員全員が理解、活用できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約の際、十分な話し合いの場をもち、疑問点、不安な事があればその都度説明し、納得していただけるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族との電話連絡や面会の際、どんな些細な事でもお話いただき改善点があれば職員で話し合い、反映できるよう努めている。	
			(外部評価) 年2回、母の日とクリスマスに家族会を開催しており、家族同士の親しい関係ができています。長期の利用者も多く、管理者は家族と親密な信頼関係が築けており、意見を言いやすい。職員は家族の面会時に声かけをして利用者の状況を報告し、意見を聞くようにしている。出された意見は申し送り簿に記録し、ミーティングで職員間で共有するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 常に職員の意見が届く環境にあり、その都度考慮し、希望に添える事、見直さなければならないこと等を検討している。</p> <p>(外部評価) 職員の意見や提案は、リーダーや管理者がまず実践して考えるようにしている。利用者のケアについては、管理者も交えていつでも話し合える体制である。職員から出された意見は、月1回ある法人の管理者会に報告し運営に反映させている。若い女性職員が多く、産前産後や育児休暇が取りやすい体制もあり、長く勤められる環境づくりをしている。職員研修にも力を入れており、経験年数に応じて1人年2～3回研修に参加できるようにしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) やりがいを持って働けるよう、給料面やメンタル面の整備に努めている。長期労働者同士、旅行に出かけ、職員間の絆づくりにも努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外の研修の参加の実施。内容を皆で共有できるよう、ミーティング時には勉強会を行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム協議会が出来、2か月に一回管理者や職員などが参加し、意見交換や勉強会などを開催している。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 本人の要望や意見を十分に聞き、安心して生活が送れるように努めている。また、何でも話し、相談ができるよう信頼関係構築にも努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) いつでも連絡、面会できる体制をとっており、御家族様との信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込まれる際に話し合いの場を設け、どのような支援を必要としているか対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に支え合う気持ちを忘れず、喜怒哀楽を共にできる関係を築く努力をしている。できることからできる支援を実施している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事等に参加していただきながら一緒に過ごす時間を持ち、共に介護に関われるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族と話合い、協力を得ながら関係が途切れないように努めている。家族と週に一回は、家で過ごされる方もいる。  (外部評価) 面会時間は制限せず、いつでも家族や友人、近隣住民が訪問してもらえるようにしている。入居前から手助けをしていた近隣住民が、頻回に面会に来る利用者もいる。管理者は利用者と家族、職員が相互に支え合う関係が理想だと考えており、家族会を年2回開催して、相互の関係を良好に保つよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共に支え合い笑顔あふれる生活が送れるよう職員や他の利用者との関係づくりに配慮している。家事や余暇活動を通してコミュニケーションが図れている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 困った事があればいつでも相談にのれる事を常日頃より家族に伝えている。退所後であっても、家族との連絡はとっている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 会話の中から本人の希望や思いを聞き出し、ミーティングで話し合いを持ち、その思いを家族にも伝えている。	
			(外部評価) 職員はソファに腰掛けてゆっくりと利用者の話を聞くように努めており、一人ひとりの思いや希望を把握している。「買い物に行きたい」という希望があれば、職員が個別に付き添い出かけられるよう支援している。帰宅願望の強い利用者には、家族が安心して連れて帰れるよう話し合い、週1回定期的に帰宅できるよう支援している。また、家族の協力を得てお墓参りに出かける利用者もいる。月1回ケーキ屋の訪問販売があり、好みのケーキを買いコーヒータイムの時間を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方を聞き、本人や家族の理解に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人にあった日々の過ごし方をしていただけるよう一人一人を十分に把握し、日々の支援に努めている。生活状況の記録、申し送り、日誌にて現状を把握できるよう職員間で情報共有している。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望や変化を把握した上で、ミーティングで話し合い、介護計画の作成に努めている。	
			(外部評価) 利用者の意向を聞き取ることは難しい場合もあるが、家族の意向も確認しながら、できるだけ介護計画に反映できるよう努めている。利用者毎の担当制を設けているが定期的に交代し、職員が利用者全員を把握できるよう努めている。担当者は毎月モニタリングを行い、ミーティングで他の職員の意見を聞くようにしている。介護計画は6か月に1回見直しを行うほか、状態の変化があった時にはその都度見直しを行っている。介護計画は家族の面会時に説明したり、遠方の家族には郵送し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子などの把握に努め、個別に記録している。申し送り、業務日誌、ミーティングなどで気付いた事を報告し共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の要望に応じ、可能な範囲で柔軟な支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーには、地域の民生委員や市の職員の方がおり、相談等の協力を得る事ができている。ボランティアの手話、紙芝居の公演を依頼している。地域の保育園とも交流を持つことができている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 個々のかかりつけ医に必要な医療支援を継続して受けている。	
			(外部評価) 従来のかかりつけ医を継続して受診している利用者が多い。 受診は家族の付き添いを基本としているが、困難な場合には 職員が受診介助をしている。診療結果は受診報告用紙に記入 し、家族と職員が情報を共有している。通院が困難な利用者 には、往診可能な医師を紹介し治療が継続できるよう支援し ている。また、日常的な健康管理のため、週1回看護師の訪 問がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 10月1日より、週に1回の訪問看護の取り入れが始まるよう になった。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、家族の協力を得ながら、面会の機会をもち不安 の軽減に努めている。早期の退院がスムーズにできるよう、 病院関係者や本人や家族と話し合い、積極的な支援に努めてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期に向けての準備として、10月1日から訪問看護を取り 入れた。一部の家族ではあるが、終末期の話し合いは行っ ている。	職員は家族のように親密な関係を築いてきた利用者を 最期まで看取りたいと考えているため、重度化や終末 期の研修を重ねて実施し職員全員の資質を高めると共 に、医療の連携体制を構築していくことを期待した い。
			(外部評価) 今までは終末期になると入院を希望する家族が多く、積極 的な看取り支援は実施していない。今後は、馴染みの事業所で 長く暮らし続けられるよう、できるだけ利用者や家族の希望 に応じていきたいと管理者は考えており、終末期の支援体制 を整えようとしている。現在も、終末期の支援について家族 と話し合いをしている利用者がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年職員全員、消防署の応急手当講習を受け、実践力を身につけている。AEDを設置しており、全員が使えるよう講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時対策の研修等には積極的に参加している。地域の消防団の協力が得られるよう話し合いができています。  (外部評価) 年2回、夜間想定を含めた避難訓練を実施している。地域の消防団員には事業所内の様子を見てもらって話し合い、災害発生時には有線放送をしてもらったり、避難誘導の協力依頼をしたりしている。また、隣接している障害者支援施設とも話し合い、相互の協力体制を築いている。市内の離れた場所にある同じ法人の事業所とも協力体制づくりをしている。	様々な災害への訓練や協力体制を築いているが、災害発生時には動揺する利用者の対応や、緊急連絡網の実施に不安を感じている職員もいるため、職員全員がマニュアルに沿った実践ができるよう、繰り返し訓練を重ねることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自尊心を傷つけない声かけや接し方に努めながら、プライバシーの保護にも十分留意している。  (外部評価) 常に利用者を職員自身や職員の家族に置き換えて考え、利用者本位のケアの実践に努めている。利用者一人ひとりの人格を尊重し、トイレの介助時はすぐに戸を閉め、隙間が開かないよう注意を払っている。脱衣場入り口にはのれんをかけ、羞恥心やプライバシーに配慮している。また、言葉づかいは過度な馴れ合いにならないよう心がけ、声かけにも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常的に自己選択、自己決定の場がある。その人に合った支援を行っている。希望や願いを日常の中から引き出せるような支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常のコミュニケーションから、希望や要望を把握し、一人一人のペースを重んじた、柔軟な支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容室などに行っている。その日の洋服は本人が納得いくよう、職員も一緒になって選ぶ。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 農園で出来た旬の野菜を使い、バランスの良い食事を提供している。入居者の意見も聞きながら献立を決め、管理栄養士にチェックしてもらっている。利用者と一緒に野菜を洗ったり、下ごしらえをしながら食事の準備や後片付けをおこなっている。 (外部評価) 管理者は旬の野菜や新鮮な食材を使用し、手作りの料理を食べてもらいたいと考えている。敷地に隣接した畑や果樹園で収穫した野菜などを使用し調理している。職員は利用者と一緒に同じものを食べており、会話や介助をしながら利用者が食べやすい量や大きさを工夫している。事業所に入居し栄養バランスのとれた食事を食べるようになったことで、糖尿病治療薬の服用が不要になった利用者もいる。また、誕生会にはケーキを作り、寿司や赤飯でお祝いをしている。利用者は職員と一緒に下ごしらえや後片付けを能力に応じて手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスを考えた食事を提供している。水分摂取量のチェックで少ない人に対してはゼリーや果物等で補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケア、うがい等の声かけを行い実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) トイレで排泄できるよう、定期的に声かけ、トイレ誘導を行っている。必要に応じてパットなどで対応することもあるが、日中はほとんど布パンツ中心で行っている。</p> <p>(外部評価) 職員は利用者がトイレで排泄できることが大切であると考えており、排泄のパターンを把握したうえで、声かけをしてトイレで排泄できるよう支援している。そのため、日中は利用者のほとんどが布パンツで過ごしており、夜間の誘導は車いすで移動介助している。病院や自宅でオムツを使用していた利用者には、様子を見ながら布パンツに変更する努力をしている。失敗を恐れて頻回に尿意を訴える利用者には、行動を抑制する薬を使用することなく根気よく排泄支援をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 水分は、1日1300～1500cc摂取できるよう努めている。食事面では食物繊維を多く取り入れる工夫、毎日の運動（散歩等）を行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 毎日の入浴を勧めている。基本的にはホームのリズムに基づいているが、時間の調整をとったり、いつでも入浴出来るようにしている。立位の難しかった利用者にはリフトを導入することにより、気持ちよく浴槽に入ってもらえることが出来ている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望に応じて、毎日入浴ができるよう支援している。庭を望めることのできる浴槽は広く、仲の良い利用者同士と一緒に入ることもできる。浴槽へ入ることが困難な利用者のために、リフトを設置している。また、脱衣場の長いすの足を短く切って高さを低くすることで、利用者自身で靴下を履きやすくなった。入浴を嫌がる利用者には、職員が交替したり時間を変更して声かけを行い、入浴できるよう支援している。温泉の素や柚子を入れ、入浴が楽しめるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 生活リズムを整える支援を心がけ、日中は活動支援を、夜間はゆっくり休めるよう努めている。一人一人の状況に応じて、昼間は休息がとれるよう配慮している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋に基づき、薬の種類、内容を把握している。一部の人ではあるが、薬局で薬のセットをしてもらい、常に連携が取れるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や日々の生活の中から出来る事、出来ない事を把握し、役割を見つけ、楽しんだり、気晴らしが出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩は毎日行っている。年に何度かは外に出かけ、外食などを行っている。利用者の希望を聞きながら、家族の協力を得て出かけられるようにしている。  (外部評価) 天気の良い日は、2～3人ずつで近所を散歩することを日課にしている。梅や桜、バラ、菊など見に季節毎に弁当を持って出かけている。利用者の高齢化や重度化に伴い、全員で外出することが難しくなっているが、初詣などには工夫をして全員で出かけ、外食も楽しんでいる。以前は家族と一緒に北海道や沖縄などに泊りがけの旅行をしていたが、現在は日帰り旅行になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にはお小遣いを預かっている。定期的にパン屋さんがホームに来られ自分の好きな物を購入されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話、年賀状、などでやりとりが出来るよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 中庭を見渡すことができる大きな窓、自然の風や光を取り入れることができる。壁には季節の作品を飾っている。</p> <p>(外部評価) 事業所の設計段階から職員の意見を取り入れて建設された日本家屋で、各所に工夫がみられる。車寄せには乗降時に利用者等が濡れないよう屋根が取り付けられていたり、玄関にはいすが置かれ、靴の着脱が容易にできるよう配慮されている。リビングはオープンキッチンで、食卓やソファ、和室コーナーがあり、利用者が思い思いの場所でくつろぐことができる。また、グランドピアノが置かれ、利用者やボランティアが誕生日等に演奏し、楽しませてくれている。また、掃出し窓から広い芝生の中庭に出ることもできる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ソファや食卓、畳の部屋等で、思い思いに過ごされている。中庭や玄関先で休まれる方の為にベンチを設置している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) お使いになっていた箆箆や机等を持ってきていただいている。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドやタンスが備え付けられている。自宅で愛用していたこたつや机、イス等を持ち込み、利用者一人ひとりに合わせ心地よく過ごせるよう配置している。家具の上には、利用者が昔可愛がっていた人形や家族の写真、外泊時に孫娘の晴れ着の帯結びをしている写真などが飾られている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレや居室の入り口には、分かりやすく表記している。タンスや持ち物等に表記している方もおいでる。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201153
法人名	(株)シルバーケアサービス
事業所名	グループホームひまわりの家
所在地	今治市古谷甲19番1
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「食事」「運動」「水分」「排泄」のテーマを重視して日々の生活ケアに取り入れている。                  「食事」・・・自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者と共に作業している。                  「運動」・・・体操・散歩・余暇活動など、日中適度な運動の習慣化を図っている。                  「水分」・・・1日1500cc摂取を目標とし、徹底してチェックしている。                  「排泄」・・・排便対策として運動・水分摂取に取り組んでいる。なるべく布パンツで生活できるよう、可能性を追求しながらケアにあたっている。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今治市の旧朝倉村の田園地帯の中に建つ事業所前の道路を隔てて、障害者支援施設今治育成園があり、利用者同士の相互の交流をしている。開設して10年目を迎える事業所は経験豊かな職員が多く、「自由で笑顔のある、こころ通う生活を共に」という理念の意味を職員は絶えず問いかけながら、やりがいを持てるケアに取り組んでいる。できる限り利用者の力が発揮できるよう、生活環境を整えたり、職員の見守る姿勢を大切にして支援している。開設当初から入居している利用者も多く、利用者同士や職員と馴染みの関係もできており、利用者からのいたわりの言葉で、職員が癒されているという感想も聞かれた。常に利用者を職員自身や職員の家族に置き換えて考え、利用者本位のケアの実践に努めている。</p>
---

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 10 月 21 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ひまわりの家

(ユニット名) ころも

記入者(管理者)

氏名 和田 京子

評価完了日 平成 26 年 10 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 常日頃より職員全員で一番大事にしたい事を話し合いながら、理念を共有し実践できるよう振り返りの実施を行っている。</p> <p>(外部評価) 「自分たちが高齢になった時にどのように過ごしたいか」を開設時に職員間で話し合い、一人ひとりの案を持ち寄り、「自由で笑顔のある、こころ通う生活を共に」という理念を作成し継続している。理念は玄関や和室中央に掲示し、利用者や家族だけでなく、職員にも常に意識できるようにしている。職員はケアに行き詰った時には理念を振り返り、実践できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域ボランティアさんの訪問や、保育園の園児たちの訪問などで交流を図っている。また、地域の祭りに行ったり、御神輿やいのこさんの訪問などはしてもらっている。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。秋祭りには地区の子ども神輿の訪問がある。保育園や小学校合同運動会に招待を受け、利用者と一緒に参加している。また、似顔絵や紙芝居、フラダンスなど多くのボランティアが訪問があり、利用者を楽しませてくれている。幼稚園児が踊りを披露してくれたり、会話を楽しんだりすることは利用者にとってこの上ない喜びになっている。また、中学生の職場体験を受け入れ、事業所の運動会にも一緒に参加してもらい交流をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回の推進会や、ボランティアさんの訪問時に、意見交換・情報交換を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) アドバイスいただいたことは職員間のミーティングで話し合いサービス向上に繋がるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は民生委員、ボランティア、近隣の障害者支援施設の職員、市担当者等の参加を得て2か月に1回開催している。会議では利用者の様子や活動報告を行うほか、毎回ヒヤリ・ハットや事故報告を行い、参加者と改善内容等を話し合い、改善できる仕組みに繋がっている。また、障害者福祉施設の職員からの提案で、利用者の顔写真を作成し、地域で利用者を見かけた場合には連絡をもらえるようになった。会議内容はミーティングで報告し、職員間で共有している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議等で相談事にその都度快く対応して下さっており、アドバイスもしていただき、応援して下さい。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の実情を把握すると共に、情報提供や助言をしている。また、市担当者が民生委員の会で事業所の見学や運営推進会議への出席を働きかけてくれるなど、協力的である。今年結成された市のグループホーム連絡協議会が2か月に1回開催されており、研修会にも参加し他の事業所との交流を図っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 日中はもちろん、夜間も玄関のみの施錠で身体拘束は行っていない。</p> <p>(外部評価) 玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。一人で外出しようとする利用者が多く、敷地の出入りにセンサーを設置し、職員が気づき声かけをするようにしている。管理者は「頭の後ろにも目をつけて」と職員を指導し見守りを徹底している。ベッドから転落が予測される利用者にはリビングの和室で寝てもらい、常に見守りができるよう配慮している。また、言葉づかいで気になることがある場合は、職員間でその都度注意し合っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員、虐待についての知識は理解できており、あつてはならないこととして認識している。外部の勉強会にも参加している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) いざという時に困らないよう、権利擁護の研修にも参加しており、職員全員が理解、活用できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約の際、十分な話し合いの場をもち、疑問点、不安な事があればその都度説明し、納得していただけるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族との電話連絡や面会の際、どんな些細な事でもお話いただき改善点があれば職員で話し合い、反映できるよう努めている。	
			(外部評価) 年2回、母の日とクリスマスに家族会を開催しており、家族同士の親しい関係ができています。長期の利用者も多く、管理者は家族と親密な信頼関係が築けており、意見を言いやすい。職員は家族の面会時に声かけをして利用者の状況を報告し、意見を聞くようにしている。出された意見は申し送り簿に記録し、ミーティングで職員間で共有するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常に職員の意見が届く環境にあり、その都度考慮し、希望に添える事、見直さなければならないこと等を検討している。	
			(外部評価) 職員の意見や提案は、リーダーや管理者がまず実践して考えるようにしている。利用者のケアについては、管理者も交えていつでも話し合える体制である。職員から出された意見は、月1回ある法人の管理者会に報告し運営に反映させている。若い女性職員が多く、産前産後や育児休暇が取りやすい体制もあり、長く勤められる環境づくりをしている。職員研修にも力を入れており、経験年数に応じて1人年2～3回研修に参加できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) やりがいを持って働けるよう、給料面やメンタル面の整備に努めている。長期労働者同士、旅行に出かけ、職員間の絆づくりにも努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修の参加の実施。内容を皆で共有できるよう、ミーティング時には勉強会を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協議会が出来、2か月に一回管理者や職員などが参加し、意見交換や勉強会などを開催している。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の要望や意見を十分に聞き、安心して生活が送れるように努めている。また、何でも話し、相談ができるよう信頼関係構築にも努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) いつでも連絡、面会できる体制をとっており、御家族様との信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込まれる際に話し合いの場を設け、どのような支援を必要としているか対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に支え合う気持ちを忘れず、喜怒哀楽を共にできる関係を築く努力をしている。できることからできる支援を実施している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事等に参加していただきながら一緒に過ごす時間を持ち、共に介護に関われるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族と話合い、協力を得ながら関係が途切れないように努めている。家族と週に一回は、家で過ごされる方もいる。  (外部評価) 面会時間は制限せず、いつでも家族や友人、近隣住民が訪問してもらえるようにしている。入居前から手助けをしていた近隣住民が、頻回に面会に来る利用者もいる。管理者は利用者と家族、職員が相互に支え合う関係が理想だと考えており、家族会を年2回開催して、相互の関係を良好に保つよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共に支え合い笑顔あふれる生活が送れるよう職員や他の利用者との関係づくりに配慮している。家事や余暇活動を通してコミュニケーションが図れている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 困った事があればいつでも相談にのれる事を常日頃より家族に伝えている。退所後であっても、家族との連絡はとっている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 会話の中から本人の希望や思いを聞き出し、ミーティングで話し合いを持ち、その思いを家族にも伝えている。  (外部評価) 職員はソファに腰掛けてゆっくりと利用者の話を聞くように努めており、一人ひとりの思いや希望を把握している。「買い物に行きたい」という希望があれば、職員が個別に付き添い出かけられるよう支援している。帰宅願望の強い利用者には、家族が安心して連れて帰れるよう話し合い、週1回定期的に帰宅できるよう支援している。また、家族の協力を得てお墓参りに出かける利用者もいる。月1回ケーキ屋の訪問販売があり、好みのケーキを買いコーヒータイムの時間を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方を聞き、本人や家族の理解に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人にあった日々の過ごし方をしていただけるよう一人一人を十分に把握し、日々の支援に努めている。生活状況の記録、申し送り、日誌にて現状を把握できるよう職員間で情報共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望や変化を把握した上で、ミーティングで話し合い、介護計画の作成に努めている。	
			(外部評価) 利用者の意向を聞き取ることは難しい場合もあるが、家族の意向も確認しながら、できるだけ介護計画に反映できるよう努めている。利用者毎の担当制を設けているが定期的に交代し、職員が利用者全員を把握できるよう努めている。担当者は毎月モニタリングを行い、ミーティングで他の職員の意見を聞くようにしている。介護計画は6か月に1回見直しを行うほか、状態の変化があった時にはその都度見直しを行っている。介護計画は家族の面会時に説明したり、遠方の家族には郵送し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子などの把握に努め、個別に記録している。申し送り、業務日誌、ミーティングなどで気付いた事を報告し共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の要望に応じ、可能な範囲で柔軟な支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーには、地域の民生委員や市の職員の方がおり、相談等の協力を得る事ができている。ボランティアの手話、紙芝居の公演を依頼している。地域の保育園とも交流を持つことができている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 個々のかかりつけ医に必要な医療支援を継続して受けている。</p> <p>(外部評価) 従来のかかりつけ医を継続して受診している利用者が多い。 受診は家族の付き添いを基本としているが、困難な場合には 職員が受診介助をしている。診療結果は受診報告用紙に記入 し、家族と職員が情報を共有している。通院が困難な利用者 には、往診可能な医師を紹介し治療が継続できるよう支援し ている。また、日常的な健康管理のため、週1回看護師の訪 問がある。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 10月1日に、週に1回の訪問看護の取り入れが始まるよう になった。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には、家族の協力を得ながら、面会の機会をもち不安 の軽減に努めている。早期の退院がスムーズにできるよう、 病院関係者や本人や家族と話し合い、積極的な支援に努めてい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 終末期に向けての準備として、10月1日から訪問看護を取り 入れた。一部の家族ではあるが、終末期の話し合いは行っ ている。</p> <p>(外部評価) 今までは終末期になると入院を希望する家族が多く、積極 的な看取り支援は実施していない。今後は、馴染みの事業所で 長く暮らし続けられるよう、できるだけ利用者や家族の希望 に応じていきたいと管理者は考えており、終末期の支援体制 を整えようとしている。現在も、終末期の支援について家族 と話し合いをしている利用者がある。</p>	職員は家族のように親密な関係を築いてきた利用者を 最期まで看取りたいと考えているため、重度化や終末 期の研修を重ねて実施し職員全員の資質を高めると共 に、医療の連携体制を構築していくことを期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年職員全員、消防署の応急手当講習を受け、実践力を身につけている。AEDを設置しており、全員が使えるよう講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時対策の研修等には積極的に参加している。地域の消防団の協力が得られるよう話し合いができています。  (外部評価) 年2回、夜間想定を含めた避難訓練を実施している。地域の消防団員には事業所内の様子を見てもらって話し合い、災害発生時には有線放送をしてもらったり、避難誘導の協力依頼をしたりしている。また、隣接している障害者支援施設とも話し合い、相互の協力体制を築いている。市内の離れた場所にある同じ法人の事業所とも協力体制づくりをしている。	様々な災害への訓練や協力体制を築いているが、災害発生時には動揺する利用者の対応や、緊急連絡網の実施に不安を感じている職員もいるため、職員全員がマニュアルに沿った実践ができるよう、繰り返し訓練を重ねることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自尊心を傷つけない声かけや接し方に努めながら、プライバシーの保護にも十分留意している。  (外部評価) 常に利用者を職員自身や職員の家族に置き換えて考え、利用者本位のケアの実践に努めている。利用者一人ひとりの人格を尊重し、トイレの介助時はすぐに戸を閉め、隙間が開かないよう注意を払っている。脱衣場入り口にはのれんをかけ、羞恥心やプライバシーに配慮している。また、言葉づかいは過度な馴れ合いにならないよう心がけ、声かけにも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常的に自己選択、自己決定の場がある。その人に合った支援を行っている。希望や願いを日常の中から引き出せるような支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常のコミュニケーションから、希望や要望を把握し、一人一人のペースを重んじた、柔軟な支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容室などに行っている。その日の洋服は本人が納得いくよう、職員も一緒になって選ぶ。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 農園で出来た旬の野菜を使い、バランスの良い食事を提供している。入居者の意見も聞きながら献立を決め、管理栄養士にチェックしてもらっている。利用者と一緒に野菜を洗ったり、下ごしらえをしながら食事の準備や後片付けをおこなっている。 (外部評価) 管理者は旬の野菜や新鮮な食材を使用し、手作りの料理を食べてもらいたいと考えている。敷地に隣接した畑や果樹園で収穫した野菜などを使用し調理している。職員は利用者と一緒に同じものを食べており、会話や介助をしながら利用者が食べやすい量や大きさを工夫している。事業所に入居し栄養バランスのとれた食事を食べるようになったことで、糖尿病治療薬の服用が不要になった利用者もいる。また、誕生会にはケーキを作り、寿司や赤飯でお祝いをしている。利用者は職員と一緒に下ごしらえや後片付けを能力に応じて手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスを考えた食事を提供している。水分摂取量のチェックで少ない人に対してはゼリーや果物等で補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケア、うがい等の声かけを行い実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレで排泄できるよう、定期的に声かけ、トイレ誘導を行っている。必要に応じてパットなどで対応することもあるが、日中はほとんど布パンツ中心で行っている。  (外部評価) 職員は利用者がトイレで排泄できることが大切であると考えており、排泄のパターンを把握したうえで、声かけをしてトイレで排泄できるよう支援している。そのため、日中は利用者のほとんどが布パンツで過ごしており、夜間の誘導は車いすで移動介助している。病院や自宅でオムツを使用していた利用者には、様子を見ながら布パンツに変更する努力をしている。失敗を恐れて頻回に尿意を訴える利用者には、行動を抑制する薬を使用することなく根気よく排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分は、1日1300～1500cc摂取できるよう努めている。食事面では食物繊維を多く取り入れる工夫、毎日の運動(散歩等)を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日の入浴を勧めている。基本的にはホームのリズムに基づいているが、時間の調整をとったり、いつでも入浴出来るようにしている。立位の難しかった利用者にはリフトを導入することにより、気持ちよく浴槽に入ってもらえることが出来ている。  (外部評価) 利用者の希望に応じて、毎日入浴ができるよう支援している。庭を望めることのできる浴槽は広く、仲の良い利用者同士と一緒に入ることもできる。浴槽へ入ることが困難な利用者のために、リフトを設置している。また、脱衣場の長いすの足を短く切って高さを低くすることで、利用者自身で靴下を履きやすくなった。入浴を嫌がる利用者には、職員が交替したり時間を変更して声かけを行い、入浴できるよう支援している。温泉の素や柚子を入れ、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活リズムを整える支援を心がけ、日中は活動支援を、夜間はゆっくり休めるよう努めている。一人一人の状況に応じて、昼間は休息がとれるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋に基づき、薬の種類、内容を把握している。一部の人ではあるが、薬局で薬のセットをしてもらい、常に連携が取れるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や日々の生活の中から出来る事、出来ない事を把握し、役割を見つけ、楽しんだり、気晴らしが出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩は毎日行っている。年に何度かは外に出かけ、外食などを行っている。利用者の希望を聞きながら、家族の協力を得て出かけられるようにしている。  (外部評価) 天気の良い日は、2～3人ずつで近所を散歩することを日課にしている。梅や桜、バラ、菊など見に季節毎に弁当を持って出かけている。利用者の高齢化や重度化に伴い、全員で外出することが難しくなっているが、初詣などには工夫をして全員で出かけ、外食も楽しんでいる。以前は家族と一緒に北海道や沖縄などに泊りがけの旅行をしていたが、現在は日帰り旅行になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にはお小遣いを預かっている。定期的にパン屋さんがホームに来られ自分の好きな物を購入されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話、年賀状、などでやりとりが出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 中庭を見渡すことができる大きな窓、自然の風や光を取り入れることができる。壁には季節の作品を飾っている。  (外部評価) 事業所の設計段階から職員の意見を取り入れて建設された日本家屋で、各所に工夫がみられる。車寄せには乗降時に利用者等が濡れないよう屋根が取り付けられていたり、玄関にはいすが置かれ、靴の着脱が容易にできるよう配慮されている。リビングはオープンキッチンで、食卓やソファ、和室コーナーがあり、利用者が思い思いの場所でくつろぐことができる。また、グランドピアノが置かれ、利用者やボランティアが誕生日等に演奏し、楽しませてくれている。また、掃出し窓から広い芝生の中庭に出ることもできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや食卓、畳の部屋等で、思い思いに過ごされている。中庭や玄関先で休まれる方の為にベンチを設置している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) お使いになっていた箆箆や机等を持ってきていただいている。  (外部評価) 居室にはベッドやタンスが備え付けられている。自宅で愛用していたこたつや机、イス等を持ち込み、利用者一人ひとりに合わせ心地よく過ごせるよう配置している。家具の上には、利用者が昔可愛がっていた人形や家族の写真、外泊時に孫娘の晴れ着の帯結びをしている写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや居室の入り口には、分かりやすく表記している。タンスや持ち物等に表記している方もおいでる。	